

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第6回)

**PROCEEDINGS OF THE 6th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

(1982)

**国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE**

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 6th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1982

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, 142

目 次

あいさつ	小山 弘 志 ……………	3頁
写真集	……………	7頁
特別講演		
美術品としての日本の書物	Kenneth B. Gardner ……	15頁
日本古典文学の翻訳について	Donald Keene ……	28頁
研究発表(1)		
田山花袋が抱いていた自然のイメージ	Kenneth G. Henshall ……	43頁
日本近代文壇に於ける『聊斎志異』の受容と変容	翁 蘇 倩 卿 ……	53頁
中世後期、古典研究の一側面 ——近衛尚通の場合——	鶴 崎 裕 雄 ……	75頁
招待発表(1)		
芭蕉俳諧の時間性	李 栄 九 ……	85頁
『風流使者記』から『峡中紀行』へ ——荻生徂徠の紀行文学——	Olof G. Lidin ……	96頁
中世日本叙事文学における人間描写の原理と方法 ——『平家物語』を素材として——	Irina Lvova ……	108頁
観客の運命 ——三つの関係——	Frank Hoff ……	125頁
研究発表(2)		
幸田露伴の外国を見る眼 ——露伴文学の解読のひとつの試み——	鴻 沼 誠 二 ……	137頁

シンボリズムの流行と井伏の『鯉』	Anthony V. Liman ……156頁
大江健三郎とロシアン・フォーマリズム	Yoshiko Yokochi Samuel…167頁

招待発表(2)

古井由吉・古山高麗雄の小説の主人公	Mikolaj Melanowicz …179頁
道行文に見る故事について ——お伽草子を中心として——	Jacqueline Pigeot ……191頁
百合草若の物語の由来	James T. Araki…203頁

公開講演

文芸としての日記 ——王朝時代の日記文学を中心にして——	William H. McCullough 217頁
藤原道長と『御堂関白記』	山中 裕 ……235頁

記録

日程 ……	251頁
参加者名簿 ……	255頁
国際日本文学研究集会委員名簿 ……	259頁

あ い さ つ

本日は多数御参会下さいましてまことにありがとうございます。

当館の主催する国際日本文学研究集会も第六回になりました。実は本年は当館設立後十年に当たります。それで、去る十月二十九日に十周年の記念式を行ない、その翌日には、中村真一郎・金子金治郎両講師による記念講演会を開催いたしました。またこの階上で記念の特別展示をいたしております。休憩時間にも御覧いただきたいと存じ、お手もとの資料の中にその図録を入れておきました。今回の研究集会を四日間にいたしましたのは、このような記念行事の一つとしたためでありまして、これまでは二日間でありましたのを、やや規模の大きな集会にしたのでございます。

この十年間、当館は多くの方々の御援助を得て、いろいろな仕事をやって参りました。この場で簡単に当館の概略を御紹介いたしたいと存じます。

国文学研究資料館の一つの大きな仕事は、江戸時代末までに日本で作られた国文学関係の書物を主としてマイクロフィルムで収集し、それらを「原本」に対するいわば「副本」のような形で長く保存する道を講ずることです。それとともに、所蔵者の許諾の得られたものについては、これを研究者の閲覧に供し、またコピーサービスにも応じております。公私の所蔵者の御好意により、現在すでに約五万点の文献資料をマイクロフィルムで収集いたしております。

次に、日本文学関係の研究論文が非常に沢山発表されておりますので、これらの研究情報を整理して毎年目録を作り、『国文学年鑑』として刊行しております。それとともに、各機関の御協力を得て、これら論文の載っている雑誌・紀要等の収集に努め、それがこの十年でかなりの数量に達しまして、これまた閲覧に供して、研究の進展のお役に立っております。

これら資料の整理や目録作りにはコンピュータが利用されております。このコンピュータで漢字のデータを処理することは、ついちょっと前までは考

えにくかったことでありまして、その面で当館は先進的な役割を果たして参りました。現在、国文学研究のどのような面にコンピュータを利用できるか、というような点にも研究を進めております。

以上のような活動とともに、国際的な活動として、昭和五十二年の開館以来、毎年一人ずつ文部省招聘の外国人研究員を迎えております。お名前だけ御紹介いたしますと、初代がドナルド・キーン教授、続いて、ダグラス・ミルズ、エドワード・サイデンステッカー、バルナール・フランク、ブルーノ・レヴィン、そして現在のウィリアム・マカラの諸先生でございます。ごく最近文部省より一人追加希望があるなら申し出るようにと連絡があり、今回おいでいただいているオロフ・リディン教授を、この十一月から三ヶ月間、研究員としてお迎えできることになりました。

この外国人研究員の招聘とあわせて、この国際日本文学研究集会の開催により、海外における日本文学、あるいは日本学の学者と私どもとの間の交流が進められて参りました。特に今回は、従来のような日本に滞在されている方々だけでなく、この研究集会のために何人かの方々に海外からおいでいただくことを計画し、ささやかではございますが六日間の滞在実費だけを用意してお招きいたしましたところ、七名の方が御参加下さいました。アルファベット順で申し上げますと、ジェームズ・アラキ、フランク・ホフ、李栄九、オロフ・リディン、イリナ・ルヴォーフ、ミコライ・メラノヴィッチ、ジャクリーヌ・ピジョーの皆さんでございます。おかげさまでこの研究集会がたいへんはなやかなものになったように思われます。従来の方法での研究発表の公募も踏襲いたしており、それにも内外のすぐれた研究者の御応募がありまして、両者あわせて充実したプログラムが出来上がりました。

話が前後いたしますが、以上の方々の研究発表に先立って、すなわち本日、お二人の方、国際交流基金に招聘をお願いして御参加いただいた英国図書館のケネス・ガードナー先生と、当館初代外国人研究員であられたドナルド・キーン先生とに、特別講演をお願いいたしております。そして四日目の最終

日には、現在の客員教授であるウィリアム・マカラ先生と、マカラ先生と共同研究をされている歴史学者の山中裕先生とに公開講演をお願いすることにいたしました。

それから、プログラムには単に「催し」としか書いてございませんが、これは関係の方々の御尽力によって、伝統芸能の一つである説経浄瑠璃を若松若太夫さんをお願いすることができました。また今回は四日間でございますので、今夕のレセプションのほかに、明後日の夕方にもティータイムと称して、ほんのクッキー程度のおもてなしですが、御歓談の場を設けることにいたしました。

実は、これらのことは市古前館長のころから、井本農一先生を委員長とする委員会で計画を進めて来たものでありまして、それが今実を結んだ次第でございます。

この国際日本文学研究集会も、回を重ねるごとに充実して参りました。今後も皆様方の御協力を得て一層発展させてゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。簡単でございますが、これをもって御挨拶といたします。

国文学研究資料館長

小 山 弘 志

発行
昭和58年3月

編集兼発行者
国文学研究資料館
〒142 東京都品川区豊町1-16-10
電話 (03) 785-7131 (代)